

特別展

「絵日記でつづった学童集団疎開展」

4月10日(水)～5月26日(日)

第二次世界大戦末期、富山県は学童集団疎開先として約15,000名の児童を受け入れました。その中には東京女子高等師範学校附属国民学校（現お茶の水女子大学附属小学校）の児童124名が含まれていました。その児童が疎開中に毎日書きつづった絵日記、疎開を受け入れた方々との交流の品等を展示しました。

なお、展示した絵日記や写真等のパネル200点は、当時の体験を語り継ぐ団体「平和祈念プロジェクト21」代表の美川季子さんより寄贈を受けたものです。また、交流の品等は、南砺市立中央図書館より借用しました。



来館者アンケートより①

10歳前後の子供たちが親元を離れての集団生活はどんなに心細かったであろうかと胸が潰れる思いで見ました…日記の文書もしっかりしていて驚かせられます。



来館者アンケートより②

平成から令和へ 時代の移り変わりと共に戦争の記憶が薄らいでいくことは必然かも知れません。そうした中で「学童集団疎開」を切り口に展示があることを素晴らしいことだと思います…

美川さん 来館、座談会開催 5月8日【水】

美川さんが、現在お住まいの山梨県より来館し、展示の様子をご覧になりました。その後当館会議室において「特別展に何を学び、伝えるか」をテーマに座談会を開催しました。



教育記念室に「学童集団疎開」コーナーを新設



「学童集団疎開と富山県」をテーマとした展示コーナーを2階教育記念室に新設しました。寄贈された「展示パネル」や美川さんの「絵日記（複製）」5冊も展示してあります。これらは貸出しも出来ますので、ご利用予定の場合は当館へご連絡ください。